

2025年
対策

旅行 4

業務取扱管理者試験

標準

トレーニング 問題集

海外旅行実務

総合受験対応



過去10年分の試験問題から厳選

試験にでる 国際航空運賃
出入国手続等
この1冊でマスター!

出入国手続など
の法・規則変更
に 対応

これで
合格

資格の大原 旅行業務取扱管理者講座 編著
大原出版

資格
の大原

2025年
対策

旅行

業務取扱
管理者試験

標準

トレーニング
問題集

4

海外旅行実務

総合受験対応

本書の特長

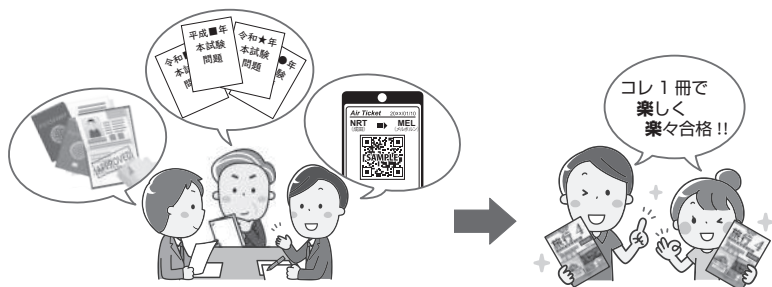


合格に必要な 200 問を、過去問から厳選収録

国際航空運賃・出入国手続き等の法・規則変更にも対応！

「出入国法令」から 60 問、「出入国・海外実務」から 55 問、「国際航空運賃計算」から 35 問、「語学」から 50 問、厳選した計 200 問を掲載。過去問から、試験によく出ている問題や、典型的な出題形式（四肢択一、複数解答選択、組み合わせなど）の問題を掲載しています。

出入国・海外実務と国際航空運賃計算の問題は、資料が“別冊”なので、本試験を意識した問題演習ができます。



過去の本試験問題を厳選収録！

最新の国際航空運賃・出入国手続き等の法・規則変更にも完全対応！



初めてでもよくわかる別冊「解答・解説集」

解答・解説は取り外し可能。解答後の確認に便利です。

わかりやすい解説付きなので、初めて学ぶ方でも安心！

〔問 4〕□□□ 次のヨーロッパ各国のシェンゲン協定加盟状況とその国の通貨との組み合わせのうち、正しいものはどれか。

国 名	シェンゲン協定	通 貨
a. チェコ	— 加盟	— ユーロ
b. ノルウェー	— 加盟	— ノルウェー・クローネ
c. ハンガリー	— 非加盟	— フロリント
d. ポルトガル	— 非加盟	— ユーロ

〔問 4〕正解 b
a. 誤り。チェコは、シェンゲン協定加盟国で、法定通貨は“コルナ”である。
b. 正しい。
c. 誤り。ハンガリーは、シェンゲン協定“加盟国”で、法定通貨はフロリントである。
d. 誤り。ポルトガルは、シェンゲン協定“加盟国”で、法定通貨はユーロである。

取り外せるから問題との照らし合わせに便利！





受験のノウハウが満載



「試験概要」「活用方法」をわかりやすく解説

Section 1 総合旅行業務取扱管理者試験 試験概要（例年）

① 試験科目と出題数と試験時間（4科目受験者）

午前 (80分)	① 旅行業法及びこれに基づく命令	(25問：100点)
	② 旅行業約款、旅行業約款	(20問：80点)
	運送約款及び宿泊約款 運送約款及び宿泊約款	(10問：20点)
午後 (120分)	③ 国内旅行実務 国内観光地理	(20問：40点)
	国内運賃・料金計算	(12問：60点)
	国際航空運賃・料金計算	(8問：40点)
④ 海外旅		

(1) 問題を解く目的

問題を解く際には、正誤を憶えるのではなく、正誤判断をするための「キーワード」と「その理由」を憶えることが重要。したがって、問題を解くにあたっては、「キーワード」と「その理由」を見つけ、覚え込むことを強く意識してください。

(2) 回転と目標

問題の「キーワード」を記憶として定着させるためには、**繰り返し問題を解く（回転させる）ことが必要**です。

これまでの合格された方の声によると、**3回転以上が一つの目安**となります。そこで各問題に**チェック欄を3回転**分設けております。**チェック欄をチェック**していくと、回転の**進捗状況や理解度**が一目で分かってくて便利です。



「出題傾向と対策」が一目でわかる出題項目一覧表

Section 2 出入国法令 出題項目一覧表

項 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	8問	8問	8問	8問	8問
旅券法	4問	4問	4問	4問	4問
・有効期間	○	○	○	○	×
・申請先（居所申請）	×	×	×	×	×
・申請に必要な書類	○	○	○	○	○
・提出書類の省略	×	○	○	×	×
・署名	○	×	○	○	○
・未成年者等の申請	×	×	×	×	×
・代理申請	○	○	○	×	○
・受領	○	×	○	×	×



理解度・習熟度が把握できる「3回転チェック欄」

合格するためには**繰り返し学習**が欠かせません。

間違った問題や、知識があやふやな問題には「○」「△」「×」を付け
れば、**理解度の確認に便利**です。



〔問2〕□□□ 次のうち、書面手続による旅券の発給申請をするに当たり、申請者が人違いでないことを確認するために都道府県知事が提示又は提出を求める書類として、その要件を満たしているものを選択肢からすべて選びなさい。

- a. 顔写真
b. 印
c. 国籍

〔3〕 理解度チェック欄の使用方法

下記の判定基準を参考に、理解度チェック欄に「○」「△」「×」を付けながら問題を解きましょう。

○	正解を出すことができた。 理由付け（正誤判断）も完璧にできた。
△	正解を出すことができた。 理由付け（正誤判断）ができなかった、あいまいであった。
×	正解を出すことができなかった。 理由付け（正誤判断）することが全くできなかった。



持ち運びしやすい本の大きさ

システム手帳（A5 サイズ）と
同じ大きさなので、
持ち運びに便利です。



かばんに楽々収納できるので
どこでも気軽に学習できます

はじめに① 学習ガイド

Section 1 本書の使用にあたって

1-1. 使用対象・作成時期について

海外旅行実務トレーニング問題集は、国家試験である総合旅行業務取扱管理者試験（以下「総合」という。）に出題される「海外旅行実務（海外観光地理を除く。）」について解説した試験対策のための問題集です。総合旅行業務取扱管理者試験の合格を目指す受験生にご使用いただけるように内容を編集しております。

本トレーニング問題集は、平成8年～令和6年までの「総合」の問題のうち、厳選したものを掲載しています。本試験の出題時以降、改正等により正しい解答が導けなくなった問題については、修正を加えております。

本トレーニング問題集は、2025年4月1日現在を基準として編集しております。

1-2. 地名等について

トレーニング問題集に掲載する地名等については、原則として、各国・地域の観光局等の公式ホームページや百科事典などに基づいております。

ただし、過去の本試験でこれと異なる名称で出題されたことがあるものは、本試験で出題された名称を採用しております。

1-3. 国際航空運賃計算の掲載資料について

別冊資料編中の規則・資料については、原則として、JAL及びANAの公式ホームページに基づいております。また、2025年3月にサービスを終了した（株）オーエフシーの「OFCタリフシリーズ」の資料も参考にしております。なお、資料のうち、数字等一部問題集用に設定された箇所があります。

《受験生のためのオトクな情報をメルマガ配信》

試験にもでる！全国の祭り・行事情報などを月一配信。試験の最新情報や改正情報もわかります。ぜひご登録ください。

ご登録はこちらから ⇒ https://www.o-hara.jp/mail_magazine



Section 2 本トレーニング問題集の使用法

2-1. 合格のための効率的な学習方法

「標準トレーニング問題集」は、過去に出題された本試験問題の中から重要な問題を厳選して収録した、本試験の出題形式に合わせた四肢択一問題の形式による学習教材です。姉妹書「標準テキスト」などのテキストで学習したら、論点などに関する問題を解くという学習が最も効果的です。

テキストを読んでばかりいても、合格することはできません。合格するために必要な「知識を活用し、正解を導ける力」は、問題を繰り返し解くことで身に付くものです。問題を解くことで出題ポイント・傾向が確認・把握できますし、理解できていない・覚えていない箇所があれば、テキストに立ち返って復習することで理解度も深まります。

2-2. 別冊資料編／解答・解説集について

本トレーニング問題集の巻末には、別冊資料編／解答・解説集を掲載しており、本トレーニング問題集から取り外すことができます。

2-3. トレーニング問題集の仕様（記載例）

〔問○:〕 ☐ ☐ ☐ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。

<チェック欄>

問題を解く際にご利用ください。

詳細は「2-4. トレーニング問題集の活用方法」をご覧ください。

2-4. トレーニング問題集の活用方法

(1) 問題を解く目的	
問題を解く際には、正誤を憶えることではなく、正誤判断をするための「キーワード」と「その理由」を憶えることが重要です。したがって、問題を解くにあたっては、「キーワード」と「その理由」を見つけ、覚え込むことを強く意識してください。	
(2) 回転と目標	
問題の「キーワード」を記憶として定着させるためには、 繰り返し問題を解く（回転させる）ことが必要 です。 これまでの合格された方の声によると、 3回転以上が一つの目安 となるようです。そこで各問題に チェック欄を3回転分 設けております。 チェック欄をチェック していくと、回転の 進捗状況や理解度 が一目で分かかって便利です。	
(3) 理解度チェック欄の使用方法	
下記の判定基準を参考に、理解度チェック欄に「○」「△」「×」を付けながら問題を解きましょう。	
○	正解を出すことができた。 理由付け（正誤判断）も完璧にできた。
△	正解を出すことができた。 理由付け（正誤判断）ができなかった、あいまいであった。
×	正解を出すことができなかった。 理由付け（正誤判断）することが全くできなかった。
「△・×が続く問題」が、ご自身が苦手としている問題です。この「△・×が続く問題」を確実に克服していくことが、合格への絶対条件になります。 「△・×が続く苦手な問題」を記録し把握しておけば、「学習時間があり取れない時期の復習」「直前期の総復習」などに大いに役立ちます。	

出入国法令トレーニング問題集

Lesson 1	旅券法	P 2
Lesson 2	入管法	P 15
Lesson 3	動植物検疫に関する法令	P 19
Lesson 4	外為法、通関手続に関する法令	P 21

出入国実務トレーニング問題集

Lesson 1	査証、出入国手続	P 30
Lesson 2	ホテル・飲食・クルーズ・鉄道の知識	P 33
Lesson 3	時差計算	P 37
Lesson 4	OAG時刻表（2レターコード）	P 41
Lesson 5	OAG時刻表（3レターコード）	P 43
Lesson 6	OAG時刻表（運航情報）	P 46
Lesson 7	OAG時刻表（所要時間計算）	P 48
Lesson 8	OAG時刻表（最少乗継時間）	P 51

語 学トレーニング問題集

Lesson 1	短文問題	P 54
Lesson 2	長文問題	P 60

国際航空運賃計算トレーニング問題集

Lesson 1	基本知識	P 78
Lesson 2	普通運賃計算	P 80
Lesson 3	特別運賃計算	P 90

Section 1 総合旅行業務取扱管理者試験 試験概要（例年）

① 試験科目と出題数と試験時間（4科目受験者）

午前 (80分)	① 旅行業法及びこれに基づく命令		(25問：100点)
	② 旅行業約款、 運送約款及び宿泊約款	旅行業約款	(20問：80点)
		運送約款及び宿泊約款	(10問：20点)
午後 (120分)	③ 国内旅行実務	国内観光地理	(20問：40点)
		国内運賃・料金計算	(12問：60点)
	④ 海外旅行実務	国際航空運賃・料金計算	(8問：40点)
		出入国・海外実務	(8問：40点)
		出入国法令	(8問：40点)
		海外観光地理	(20問：40点)
		語学（英語）	(8問：40点)

② 合格基準点

各受験科目で満点の60%以上を得点した者です。

③ 出題形式

マークシート方式です。記述問題は出題されません。

出題パターンは、4肢択一問題又は組み合わせ問題です。

特有の出題形式として、設問に該当するものを選択肢からすべて選び解答用紙にすべてマークする問題が出題されます。

出入国実務と国際航空運賃計算の冊子は試験問題と別冊資料編で構成されております。

電卓（電子計算機）使用は不可です。

出入国実務と国際航空運賃計算では、受験生に実際に計算させる問題が出題されます。

語学（英語）は、苦手とする者は最も苦勞する分野です。英語がまったく苦手という者は、語学に時間をかけて学習するよりも、他の海外旅行実務の分野で点を稼ぐことを考えて学習するほうが得策です。

Section 2 出入国法令 出題項目一覧表

項 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	8問	8問	8問	8問	8問
旅券法	4問	4問	4問	4問	4問
・有効期間	○	○	○	○	×
・申請先（居所申請）	×	×	×	×	×
・申請に必要な書類	○	○	○	○	○
・提出書類の省略	×	○	○	×	×
・署名	○	×	○	○	○
・未成年者等の申請	×	×	×	×	×
・代理申請	○	○	○	×	○
・受領	○	×	○	×	×
・記載事項の変更	○	○	×	○	×
・残存有効期間同一旅券					
・有効期間内の申請	○	×	○	×	○
・紛失又は焼失の届出	○	×	○	○	○
・失効	×	○	○	×	○
・返納	×	×	×	○	×
・外国滞在の届出	○	○	×	○	○
・帰国のための渡航書	×	○	○	○	○
入管法（再入国の許可）	1問	1問	1問	1問	1問
検疫法	0問	0問	0問	0問	0問
動植物検疫に関する法令	1問	1問	1問	1問	1問
・動物検疫	○	○	○	○	○
・植物検疫	○	○	○	○	○
・外来生物法による輸入規制	×	×	×	×	×
外為法（支払手段等の輸出入）	0問	0問	0問	0問	0問

項 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
通関手続に関する法令	2問	2問	2問	2問	2問
・ 出国時の税関	×	×	○	×	○
・ 携帯品・別送品の申告	×	×	×	×	×
・ 別送品	○	×	○	○	○
・ 海外市価と課税価格	×	×	×	×	×
・ 免税範囲	○	○	○	○	○
・ 税の適用	○	○	○	○	○
・ 輸入規制品	×	○	×	×	×
・ 輸入禁止品	×	×	×	×	×

Section 3 出入国実務 出題項目一覧表

項 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	8問	8問	8問	8問	8問
査証	×	1問	1/2問	1/2問	1/2問
海外安全情報	×	×	×	×	×
日本の出入国手続	×	1問	1問	1問	×
外国の出入国手続	×	×	1/4問	1/4問	1/4問
LOST AND FOUND	×	×	×	×	×
EU・ユーロ・シェンゲン協定	×	×	1と1/4問	1と1/4問	1と1/4問
海外旅行傷害保険	×	×	×	×	×
ホテル・飲食・クルーズの知識	2問	1問	×	1問	1/2問
各国の名物料理の知識	×	×	×	×	1問
鉄道知識	1問	1問	1問	×	1/2問
O A G 航 空 時 刻 表	時差計算	1問	1問	1問	1問
	航空会社コード等	1問	1問	1問	1問
	都市・空港コード	1問	1問	1問	1問
	運航情報	×	×	×	×
	所要時間計算	1問	1問	1問	1問
	MCT(最少乗継時間)	1問	×	×	×

Section4 語学 出題項目一覧表

	出題数	出題項目
令和2年度	8問	ラスベガス発グランドキャニオンへのヘリコプターツアーの案内 (4問)
		英国のエイボン川の貸切りパークルーズの案内 (4問)
令和3年度	8問	ロンドンの「中世の王室の宴(うたげ)」をテーマとしたシアターレストランの予約に関する案内 (4問)
		あるホテルが旅行会社に提示した団体予約に関する取引条件書 (4問)
令和4年度	8問	米国のあるプロ野球球団のホームスタジアムに関するインターネット上の案内 (4問)
		クルーズ会社の予約に関する条件書 (4問)
令和5年度	8問	ハワイのハナウマ湾自然保護区に関するインターネット上の案内 (4問)
		米国の会社が運航するナイアガラ滝の遊覧船に関するインターネット上の案内 (4問)
令和6年度	8問	英国のバッキンガム宮殿に関するインターネット上の案内 (4問)
		ニュージーランドのフィヨルドランド国立公園にあるミルフォードサウンドのクルーズツアーに関する案内 (4問)

Section5 国際航空運賃計算 出題項目一覧表

	出題数	出題項目
令和2年度	8問	欧州行：NHエコノミークラス特別運賃 (4問)
		東南アジア行：JLエコノミークラス特別運賃 (4問)
令和3年度	8問	欧州行：JLエコノミークラス特別運賃 (4問)
		東南アジア行：NHエコノミークラス特別運賃 (4問)
令和4年度	8問	中国行：NHエコノミークラス普通運賃・特別運賃 (4問)
		米国行：JLエコノミークラス特別運賃 (4問)
令和5年度	8問	米国行：JLエコノミークラス特別運賃 (4問)
		欧州行：NHエコノミークラス特別運賃 (4問)
令和6年度	8問	欧州行：JLエコノミークラス特別運賃 (4問)
		北米行：NHエコノミークラス特別運賃 (4問)



出入国法令 トレーニング問題集

《トレーニング問題集の利用にあたって》

本書に掲載されている問題のうち、各設問文の末尾が「～を**選択肢からすべて選びなさい**」とある場合は、「正しい（又は、誤っている）」と判断した**ものについて、解答用紙（マークシート）にすべてマークすることとなります**。**それ以外の設問は**、解答用紙（マークシート）に、「正しい（又は、誤っている）」と判断したもの**1つマークすることとなります**。

〔問 1〕 ☐ ☐ ☐ 次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- a . 2018年10月23日の14歳の誕生日が発行年月日の旅券の名義人は、当該旅券の残存有効期間が1年未満となったその日に、有効期間が10年の旅券の発給を申請できる。
- b . 疾病により署名することが困難な者が旅券の発給を申請する場合、当該発給申請者の法定代理人は、一般旅券発給申請書の所持人自署欄に当該発給申請者の記名をもって代えることができ、その記名に当たっては当該法定代理人が行ったものであることを明らかにしなければならない。
- c . 書面手続による旅券の発給を申請するに当たり、申請者がその法定代理人を通じて旅券の発給の申請に係る書類及び写真を提出して申請しようとする場合、申請書類等提出委任申出書を提出しなければならない。
- d . 書面手続による旅券の発給を申請するに当たり、申請者に代わり出頭する者は、当該申請の内容を知り、かつ、都道府県知事又は領事官の指示を申請者に確実に伝達する能力がある者でなければならない。

〔問 2〕 ☐ ☐ ☐ 次のうち、書面手続による旅券の発給申請をするに当たり、申請者が人違いでないことを確認するために都道府県知事が提示又は提出を求める書類として、その要件を満たしているものを選択肢からすべて選びなさい。

- a . 個人番号カードを1点のみ
- b . 印鑑登録証明書と実印の2点
- c . 国民健康保険資格証明書を1点のみ

〔問3〕 ☐ ☐ ☐ 次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- a. 外務大臣又は領事官は、旅券の発給を受けることができない者、又は旅券法の規定による旅券の返納の命令に基づいて旅券を返納した者に限り、その者の申請に基づいて、必要があると認める場合には、旅券に代えて渡航書を発給することができる。
- b. 残存有効期間が1年未満となったため、新たに旅券の発給を申請するに当たり、現有旅券の記載事項に変更がないときには、戸籍謄本の提出を要しない。
- c. 発給された旅券を申請者本人が出頭して受領することが困難な場合、一般旅券受領証に加え、当該申請者が出頭できない具体的理由を記入した交付時出頭免除願書1通を提出しなければならない。
- d. 旅券の名義人が、旅券を焼失したため届出をするに当たっては、紛失一般旅券等届出書1通に、焼失の事実を証明し、又は疎明する書類及び旅券の名義人の写真を添えて、提出しなければならない。

〔問4〕 ☐ ☐ ☐ 書面手続による旅券の発給申請をするに当たり、申請者が人違いでないことを確認するために、都道府県知事が提示又は提出を求める次の書類のうち、1点のみでよいとされているものを選択肢からすべて選びなさい。

- a. 宅地建物取引士証
- b. 運転経歴証明書（交付年月日が平成24年4月1日以降のもの）
- c. 国民年金手帳
- d. 旅行業務取扱管理者証

〔問５〕☐ ☐ ☐ 次の記述から、正しいものだけをすべて選んでいるものはどれか。

- （ア）残存有効期間が１年未満となったため、新たに旅券の発給申請をする場合、現有旅券の記載事項に変更がないときには、戸籍謄本を提出することを要しない。
- （イ）同一の戸籍内にある２人以上の者が同時に旅券の発給申請をするに当たって、いずれか１人が戸籍謄本を提出すれば、他の者については戸籍謄本を提出することを要しない。
- （ウ）名義人の氏名に変更を生じたため、残存期間同一用の一般旅券発給申請書で旅券の発給申請をする場合には、新たに発給される旅券の旅券番号、有効期間満了の日は現有旅券と同じである。

- | | |
|-----------|--------------|
| a. （ア）（イ） | b. （ア）（ウ） |
| c. （イ）（ウ） | d. （ア）（イ）（ウ） |

〔問６〕☐ ☐ ☐ 次の記述のうち、正しいものだけをすべて選んでいるものはどれか。

- （ア）旅券を紛失した場合、当該旅券の名義人は外務省令で定めるところにより、遅滞なく、国内においては都道府県知事を経由して外務大臣に対し、国外においては領事官に対し、その旨を届け出なければならない。
- （イ）旅券を焼失した場合、当該旅券の名義人が病気により出頭が困難であると認められるとき、当該旅券の名義人に代わり焼失の届出を行うことができる者は、書面手続の場合、当該旅券の名義人の配偶者又は２親等内の親族に限られる。
- （ウ）旅券の名義人が外国に住所又は居所を定めて３か月以上滞在しようとするときは、遅滞なく、当該住所又は居所を管轄する領事官（当該住所又は居所を管轄する領事官がいない場合には、最寄りの領事官）に対し、書面手続又は電子手続により届け出なければならない。

- | | |
|-----------|--------------|
| a. （ア）（イ） | b. （ア）（ウ） |
| c. （イ）（ウ） | d. （ア）（イ）（ウ） |

〔問 7〕 ☐ ☐ ☐ 次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- a. 旅券の発給を申請した者が、当該旅券の発行の日から 6 か月以内に当該旅券を受領せず、その 6 か月を経過したとき当該旅券は失効する。
- b. 旅券の名義人は旅券の有効期間が 1 年未満となったため、新たに旅券の発給を申請する場合、国内においては都道府県知事が、国外においては領事官が、その者の身分上の事実を確認するため特に必要があると認めるときを除き、戸籍謄本の提出を要しない。
- c. 旅券の発給を受けた者は、外務大臣又は領事官がその者の保護又は渡航の便宜のため特に必要があると認める場合を除き、その旅券が有効な限り、重ねて旅券の発給を受けることができない。
- d. 旅券の名義人で外国に住所又は居所を定めて 3 か月以上滞在しようとするものは、あらかじめ都道府県知事を通じて外務大臣に在留届 1 通を書面手続又は電子手続により届け出なければならない。

〔問 8〕 ☐ ☐ ☐ 次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- a. 同一の戸籍内にある 2 人以上の者が同時に旅券の発給を申請するに当たり、いずれか 1 人の者が戸籍謄本を提出するとき、他の者は戸籍謄本の提出を要しない。
- b. 国内外を問わず、旅券の発給を申請するに当たり、現有旅券の有効期間満了前に発給の申請ができないことについて真にやむを得ない理由があると認められるときは、戸籍謄本の提出を要しない。
- c. 外務大臣又は領事官は、旅券を所持しない者であって緊急に帰国する必要がある、かつ、旅券の発給を受けるいとまがない者で、本邦に帰国することを希望する者に対し、その者の申請に基づいて、必要があると認める場合には、旅券に代えて渡航書を発給することができる。
- d. 在留届を提出した者は、住所、居所その他の届出事項に変更を生じたときは、遅滞なく、当該在留届を提出した領事官にその旨を届け出なければならない。

〔問9〕 ☐ ☐ ☐ 次のうち、旅券の名義人が、当該旅券の有効期間内においても、新たに旅券の発給申請をすることができるものを選択肢からすべて選びなさい。

- a. 旅券を著しく損傷したとき。
- b. 当該旅券の査証欄に余白がなくなったとき。
- c. 当該旅券の残存有効期間が1年未満となったとき。

〔問10〕 ☐ ☐ ☐ 次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- a. 電子手続により旅券の発給を申請する者は、戸籍謄本の提出を要しない。
- b. 書面手続による旅券の発給申請をするに当たり、申請者に代わり出頭する者は、当該申請の内容を知り、かつ、都道府県知事又は領事官の指示を当該申請者に確実に伝達する能力がある20歳以上の者でなければならない。
- c. 旅券の記載事項に変更を生じた場合にあって、残存期間同一用の一般旅券発給申請書で旅券の発給申請ができるのは、名義人の氏名又は呼称のほか、本籍の都道府県名、生年月日及び性別の変更を生じた者に限られる。
- d. 旅券の名義人の氏名に変更を生じた者が、残存期間同一用の一般旅券発給申請書で旅券の発給申請をした場合、新たに発給される旅券の有効期間は、現有旅券の残存有効期間と同一である。

〔問11〕 ☐ ☐ ☐ 次の記述のうち、正しいものを選択肢からすべて選びなさい。

- a. 国外において旅券を紛失した場合、当該旅券の名義人が遅滞なく、領事官に対しその旨を届け出なければならないが、その届出があったとき、当該旅券は失効する。
- b. 旅券の名義人が現に所持する旅券の有効期間が満了して効力を失ったときは、国内においては、当該名義人が都道府県知事又は外務大臣に対し、遅滞なく当該旅券を返納しなければならない。
- c. 旅券の名義人が外国に住所又は居所を定めて3か月以上滞在しようとするときは、遅滞なく、当該住所又は居所を管轄する領事官（当該住所又は居所を管轄する領事官がない場合には、最寄りの領事官）に在留届1通を書面手続又は電子手続により届け出なければならない。

〔問12〕 ☐ ☐ ☐ 次の記述から、正しいものだけをすべて選んでいるものはどれか。

- （ア）旅券の発給を申請するに当たり、申請者が提出する戸籍謄本は、提出の日前6か月以内に作成されたものでなければならない。
- （イ）書面手続による旅券の発給を申請するに当たり、申請者がその法定代理人を通じて旅券の発給の申請に係る書類及び写真を提出して申請しようとする場合、申請書類等提出委任申出書の提出を要しない。
- （ウ）旅券の発給を申請するに当たり、申請書の所持人自署欄に、当該発給申請者が署名することが困難なものとして外務省令で定める者である場合、①当該発給申請者の法定代理人、②当該発給申請者の配偶者、③当該発給申請者の海外渡航に同行を予定しているもの、④都道府県知事又は領事官が当該発給申請者に代わり記名することが適当であると認めるものの順位により、当該発給申請者に代わって記名することができる。

- a. （ア）（イ）
- b. （ア）（ウ）
- c. （イ）（ウ）
- d. （ア）（イ）（ウ）

〔問13〕 ☐ ☐ ☐ 次の記述から、正しいものだけをすべて選んでいるものはどれか。

- （ア）書面手続による旅券の発給を申請するに当たり、申請者が指定した者を通じて当該申請に係る書類及び写真を提出して申請しようとする場合には、申請書類等提出委任申出書1通の提出が必要となるが、申請者の指定した者が法定代理人であるときは、当該申出書の提出は不要である。
- （イ）旅券の名義人が、有効期間が満了となった旅券を返納の上、旅券の発給を申請する場合、申請者の氏名及び本籍の都道府県名に変更がなければ、戸籍謄本の提出を省略することができる。
- （ウ）一般旅券発給申請書の所持人自署欄への署名について、署名する能力のない乳児が発給申請者である場合、当該乳児の海外渡航に同行を予定している者は、当該乳児の記名を行うことができる。

- a. （ア）（イ）
- b. （ア）（ウ）
- c. （イ）（ウ）
- d. （ア）（イ）（ウ）

〔問14〕 ☐ ☐ ☐ 書面手続による旅券の発給を申請するに当たり、申請者が人違いでないことを確認するために都道府県知事が提示又は提出を求める次の書類のうち、1点のみでよいとされているものを選択肢からすべて選びなさい。

- a. 個人番号カード
- b. 小型船舶操縦免許証
- c. 写真付き学生証（写真貼替え防止がなされているもの）

〔問15〕 ☐ ☐ ☐ 次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- a. 外務大臣又は領事官は、帰国のための渡航書を発給する場合には、渡航書の有効期間及び帰国の経由地を指定することができる。
- b. 書面手続の場合、申請者がその配偶者を通じて旅券の発給申請に係る書類及び写真を提出して、旅券の発給申請をしようとするときは、国内においては都道府県知事に申請書類等提出委任申出書の提出を要しない。
- c. 旅券を所持する者が、旅券の有効期間内に、残存期間同一用の一般旅券発給申請書で発給申請をした場合、新たに発給される旅券の有効期間は、現有旅券の残存有効期間と同一である。
- d. 旅券の名義人が当該旅券を紛失し、遅滞なく、国内においては都道府県知事を経由して外務大臣に届出をする場合には、紛失一般旅券等届出書1通に、紛失の事実を証明し、又は疎明する書類及び当該旅券の名義人の写真を添えて、提出しなければならない。

〔問16〕 ☐ ☐ ☐ 次の記述のうち、正しいものを選択肢からすべて選べない。

- a. 残存有効期間が1年未満となったため、新たに旅券の発給申請をする場合、国内においては都道府県知事が、その者の身分上の事実を確認するため特に必要があると認めるときを除き、戸籍謄本の提出を要しない。
- b. 同一の戸籍内にある2人以上の者が同時に旅券の発給申請をするに当たって、いずれか1人の者が戸籍謄本を提出したとき、他の者は戸籍謄本の提出を要しない。
- c. 旅券の記載事項に変更を生じた者であって、残存期間同一用の一般旅券発給申請書で旅券の発給申請ができるのは、名義人の氏名又は呼称、本籍の都道府県名、生年月日及び性別の変更に限られる。

〔問17〕 ☐ ☐ ☐ 旅券の名義人が、旅券の有効期間内に、新たに旅券の発給を申請することができるものを選択肢からすべて選びなさい。

- a. 残存有効期間が10か月となったとき
- b. 残存有効期間が3年となった旅券の名義人の氏名が婚姻により変更となったとき
- c. 残存有効期間が5年となった旅券の査証欄に余白がなくなったとき
- d. 残存有効期間が7年となった旅券を著しく損傷したとき

〔問18〕 ☐ ☐ ☐ 書面手続による旅券の発給を申請するに当たり、提示又は提出を求められている書類に関する次の記述のうち、正しいものを選択肢からすべて選びなさい。

- a. 都道府県知事が住民基本台帳法の規定により旅券の発給を申請する者に係る都道府県知事保存本人確認情報のうち、個人番号以外のものを利用するときは、申請に必要な書類のうち、住民票の写しの提示又は提出を要しないものとするができる。
- b. 提出する申請者の写真は、提出の日前6か月以内に撮影されたものでなければならない。
- c. 旅券を所持する者が、旅券の有効期間内に、新たに旅券の発給を申請する場合、現有旅券は当該申請者が人違いでないことを確認するために都道府県知事が提示又は提出を求める書類としての要件を満たしている。

〔問19〕 ☐ ☐ ☐ 次のうち、書面手続による旅券の発給を申請するに当たり、申請者が人違いでないことを確認するために都道府県知事が提示又は提出を求める書類として、その要件を満たしているものを選択肢からすべて選びなさい。

- a. 健康保険の資格証明書を1点と厚生年金保険に係る年金証書を1点
- b. 写真付き学生証（写真貼替え防止がなされているもの）を1点のみ
- c. 宅地建物取引士証を1点のみ

〔問20〕 ☐ ☐ ☐ 次の記述から、正しいものだけをすべて選んでいるものはどれか。

- （ア）旅券の発給を申請した者が、当該旅券の発行の日から6か月以内に当該旅券を受領せず、その6か月を経過したときに当該旅券は失効する。
- （イ）旅券を所持する者が、旅券の有効期間内に、新たに旅券の発給を申請した場合、当該返納旅券に代わる旅券の交付があったときに当該返納旅券は失効する。
- （ウ）旅券の名義人が、有効な旅券を紛失したため、紛失に係る届出をした上で新たに旅券の発給を申請した場合、当該紛失した旅券に代わる旅券の交付があったときに当該紛失した旅券は失効する。

- a. （ア）（イ）
- b. （ア）（ウ）
- c. （イ）（ウ）
- d. （ア）（イ）（ウ）

〔問21〕 ☐ ☐ ☐ 次の記述から、正しいものだけをすべて選んでいるものはどれか。

- （ア）国外において旅券を紛失した場合、当該旅券の名義人は、遅滞なく、領事官に対し、その旨を届け出なければならないが、その届出があったとき、当該旅券は失効する。
- （イ）旅券の名義人が、旅券を焼失したため届出をするに当たっては、紛失一般旅券等届出書1通に、焼失の事実を証明し、又は疎明する書類及び旅券の名義人の写真を添えて、提出しなければならない。
- （ウ）旅券の記載事項に変更を生じた場合において、当該旅券の名義人が、残存期間同一用の一般旅券発給申請書で発給申請ができるのは、名義人の氏名又は呼称及び本籍の都道府県名の変更に限られる。

- a. （ア）（イ）
- b. （ア）（ウ）
- c. （イ）（ウ）
- d. （ア）（イ）（ウ）

〔問22〕 ☐ ☐ ☐ 次のうち、18歳以上の旅券の名義人が、当該旅券の有効期間内においても、新たに旅券の発給を申請することができる事由となるものを選択肢からすべて選びなさい。

- a．残存有効期間が2年となった当該旅券の査証欄に余白がなくなったとき。
- b．残存有効期間が3年となった当該旅券を著しく損傷したとき。
- c．残存有効期間が4年となった当該旅券の名義人の氏名が変更になったとき。

〔問23〕 ☐ ☐ ☐ 次のうち、書面手続による旅券の発給を申請するに当たり、申請者が人違いでないことを確認するために都道府県知事が提示又は提出を求める書類として、その要件を満たしているものを選択肢からすべて選びなさい。

- a．個人番号カードを1点のみ
- b．交付年月日が平成24年4月1日以降の運転経歴証明書を1点のみ
- c．国民年金手帳を1点と後期高齢者医療資格証明書を1点

〔問24〕 ☐ ☐ ☐ 次の記述のうち、正しいものはどれか。

- a．疾病又は身体の故障により署名することが困難な者が旅券の発給を申請する場合、当該発給申請者の法定代理人、配偶者、海外渡航に同行を予定しているものが当該発給申請者に代わって記名するときの順位は特に定められていない。
- b．旅券の発給を申請した者が、当該旅券の発行日から6か月以内に当該旅券を受領せず、その6か月を経過したとき、当該旅券は失効する。
- c．旅券の名義人が外国に住所又は居所を定めて3か月以上滞在しようとするときは、あらかじめ都道府県知事を通じて外務大臣に在留届1通を、書面手続又は電子手続により届け出なければならない。
- d．旅券の名義人が、有効な旅券を紛失したため、紛失に係る届出をした上で新たに旅券の発給を申請した場合、当該紛失した旅券は、当該紛失した旅券に代わる旅券の交付があったときに失効する。

〔問25〕 ☐ ☐ ☐ 旅券の発給を申請するに当たり、提示又は提出を求められている書類に関する次の記述のうち、正しいものを選択肢からすべて選びなさい。

- a. 書面手続の場合、国民年金手帳と後期高齢者医療資格証明書の2点を提示する場合、申請者が人違いでないことを確認するために都道府県知事が提示又は提出を求める書類としての要件を満たしている。
- b. 書面手続の場合、都道府県知事が住民基本台帳法の規定により旅券の発給を申請する者に係る都道府県知事保存本人確認情報のうち、個人番号以外のものを利用するときは、申請に必要な書類のうち、住民票の写しの提示又は提出を要しないものとするができる。
- c. 旅券の名義人の氏名に変更を生じた者が、残存期間同一用の一般旅券発給申請書で旅券の発給を申請する場合、当該申請者は戸籍謄本の提出を要しない。

〔問26〕 ☐ ☐ ☐ 次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- a. 署名する能力のない乳児が発給申請者である場合、当該発給申請者の法定代理人は一般旅券発給申請書の所持人自署欄に当該発給申請者の記名をもって代えることができ、その記名に当たっては当該法定代理人が行ったものであることを明らかにしなければならない。
- b. 申請者が出頭することなく旅券を受領するときに提出する交付時出頭免除願書には、当該申請者が出頭できない具体的理由を記入し、疎明資料を添付しなければならない。
- c. 旅券の名義人は、残存有効期間が4年となった旅券の査証欄に余白がなくなった場合、新たに旅券の発給を申請することができる。
- d. 14歳の誕生日に交付を受けた旅券の名義人は、当該旅券の有効期間が1年未満となったとき、有効期間が10年の旅券の発給を申請することはできない。

〔問27〕 ☐ ☐ ☐ 次の記述から、正しいものだけをすべて選んでいるものはどれか。

- (ア) 外務大臣又は領事官は、旅券の名義人の生命、身体又は財産の保護のために渡航を中止させる必要があると認められる場合において、旅券を返納させる必要があると認められるときは、当該名義人に対して、期限を付けて、旅券の返納を命ずることができる。
- (イ) 16歳のときに交付を受けた旅券の名義人は、当該旅券の有効期間が1年未満となったとき、有効期間が5年又は10年の旅券の発給申請をすることができる。
- (ウ) 旅券の記載事項に変更を生じた場合において、当該旅券の名義人が遅滞なく、旅券の発給を申請するものとされている旅券の記載事項は、旅券の名義人の氏名、本籍の都道府県名及び生年月日に限られる。

- a. (ア) (イ)
- b. (ア) (ウ)
- c. (イ) (ウ)
- d. (ア) (イ) (ウ)

〔問28〕 ☐ ☐ ☐ 次の記述から、誤っているものだけをすべて選んでいるものはどれか。

- (ア) 旅券の名義人が、有効な旅券を紛失したため所定の届出をした上で旅券の発給申請をした場合、当該紛失した旅券は、新たに旅券が交付されたときに失効する。
- (イ) 旅券の名義人は、残存有効期間が3年となった旅券の査証欄に余白がなくなった場合、旅券の発給申請をすることができる。
- (ウ) 旅券の名義人が、旅券を焼失した場合、当該旅券の名義人が病気により出頭が困難であると認められるときは、当該旅券の名義人に代わり焼失の届出を行うことができる者は、書面手続の場合、配偶者又は2親等内の親族に限られる。

- a. (ア) (イ)
- b. (ア) (ウ)
- c. (イ) (ウ)
- d. (ア) (イ) (ウ)